AI 思い出サロン 久留米モデル

生成 AI を活用した次世代型地域福祉・生きがい創出モデルのご提案

〜「暗黙知」を「生産知」に変え、シニアが街の主役となる〜

提案の背景

多くの自治体でシニア向けサロンや認知症予防事業が行われていますが、

「参加者が集まらない」「担当者が疲弊する」「効果が続かない」といった課題が目立ちます。

その根本原因は、**シニアを「ケアされる対象」として扱っている**ことです。

AI 思い出サロンは、この課題を根本から解決します。

課題	**従来のサロン**	**AI 思い出サロンの解決**
参加者が集まらない	テーマが決まらない	写真と AI という誰もが興味を持つテーマ
担当者の負担	毎回ゼロスタート	AI が記憶を蓄積。担当者が変わっても継続
上から目線の指導	尊厳が損なわれやすい	シニアが「語る主役」。AI が 100%肯定
予算・人員不足	専門家の常時確保	スマホ 1 台 + 3 人体制で低コスト

3 つのパラダイムシフト

① 主客の逆転

シニアは指導を受ける側ではなく、自分の人生を語る**主役**になります。

AI は否定せず、優しく傾聴します。これが究極の認知症予防（回想法の DX 版）です。

② 暗黙知から生産知への転換

シニアが持つ「地域の記憶」「仕事の知恵」「子育て経験」は、当人にとっては当たり前すぎて価値に気づきにくい「暗黙知」です。

AIがそれを整理し、若い世代や地域に役立つ「生産知」に変えます。

③ AI分身（相棒）への発展

今蓄積しているデータは、将来普及する対話型AIロボットに「魂を吹き込む」準備になります。

あなたが衰えても、AI分身は24時間、あなたの代わりに語り続けます。

実施イメージ（3人体制）

スマホ1台で誰でも再現可能なシンプルな体制です。

- **マスター（語り手）**：高齢者本人（難しい操作は不要）
- **リスナー（傾聴者）**：ボランティア・民生委員
- **デジタルナビゲーター**：学生・若者（黒子役）

行政・包括には**会場提供**と**ボランティア募集**をお願いします。

システムと運用ノウハウは無償で提供します。

なぜ久留米から始めるのか

- 1997年、日本初のシニアネットを久留米で創設
- 30年にわたる地域活動の実績と信頼関係
- 認知症キャラバン・メイト16年の経験を持つ江上憲一氏（86歳）が協力

ご協力のお願い

- **会場提供**（公民館・地域センターなど）
- **広報協力**（回覧板・広報誌）
- **モデル事業としての認定**

中途半端な集まりではなく、**シニアが誇りを取り戻し、社会を支える側に回る**新しいモデルを、

一緒に作りませんか。

古賀直樹

シニア AI ネットワーク 呼びかけ人

連絡先：info@senior-ai-net.jp